

教育事業名	平成29年度 教育事業 体験！発見！ジオパーク（防災編）
-------	--

事業の趣旨	現在の小学生が大人になるまでの間に、南海トラフを震源とした巨大地震が高い確率で発生することが予想されている。そのような状況の中で生きていく高知県民として、地震や津波に対して正しい知識を持つことや被害を最小限にとどめるための減災の考え方を身につけておくことは非常に有効である。各方面の専門家から話を聞き、実際の体験を行うことで自分たちにできることを考える機会とする。
-------	--

対象者	小学4年生から6年生までの児童
-----	-----------------

実施期間	平成29年10月7日（土）～平成29年10月9日（月）2泊3日
------	---------------------------------

参加者（人数/定員）	17名/20名
------------	---------

活動プログラム	10月7日[土]	10月8日[日]	10月9日[月]
	12:00 開講式・昼食 13:30 学習1 電子基準点見学 学習2 ジオパークセンター見学 学習3 地震の化石見学 17:30 防災食試食体験1 停電体験	6:30 防災野外炊事1 (カートンドッグ) 9:30 学習4 テトラポッド見学 11:30 防災食試食体験2 12:30 避難所への移動体験 15:00 防災野外炊事2 (ロケットストーブ) 停電体験	7:00 朝食 9:00 学習5 学習のまとめ 11:00 成果発表 12:00 昼食 13:00 閉講式 解散

活動の様子	<p><1日目></p> <p>開講式と昼食の後、国土地理院や室戸世界ジオパークセンターの専門員に来ていただき、日本は世界の中でも地震が多発する特異な地域であると説明を受けた。特に室戸市はプレートの影響による大地の移動が大きく、電子基準点等の観測機器が他の地域よりも多く設置されていることや、たくさんの研究施設が地震計測を行っていることから、自分たちの住む地域が地震と密接に関係していることを学んだ。また、地震の化石といわれる砂岩岩脈を見ることで、地震のもつエネルギーの大きさも実感した。夕食は室戸市が普段から自然の家に備蓄しているアルファ化米を試食した。水で一時間戻しただけの簡単な手間で、普段食べている食事とほぼ変わらない食事が作れることに驚いた。日没後は暗闇の中での生活になったため、20時ごろにはレスキューシートに身を包んで眠りについた。</p> <p><2日目></p> <p>起床予定は6時だったが、空が白み始める5時過ぎに起き出してくる者が多く、起き出した者から耐火レンガを運んで夕食のロケットストーブづくりの準備を行った。6時過ぎにカートンドッグの材料到着を待ちかねて、すぐに調理にかかり、ホットドッグの揚げ目を友達と比べながら楽しく食べた。その後、荷物をすべてまとめて国土交通省が発注しているテトラポッドの製作現場の見学</p>
-------	---





に出発した。高さ5m重さ80tの巨大テトラポッドを仰ぎ見て、その大きさを実感した。見学後、船に乗り換えて、実際にテトラポッドが使われている消波堤の見学をした。巨大なテトラポッドが波の力でいくつも壊れているのを目にし、自然の力の大きさに驚いていた。巨大な消波堤でも津波の際はひとたまりもなく、津波を止めることはおろか、津波の到達を5分程度

遅らせるのが精いっぱいであるとの説明を聞き、貴重な5分間で何をすべきか考えるきっかけとした。昼食は袋ラーメンに直接お湯を注いで食べた。ラーメンの種類によっては味が濃くなりすぎる物もあったが、鍋で煮なくても問題なく食べられることを体験した。食後は、すべての荷物を背負い、距離4km高さ300mの道のりを歩いて、避難所としている自然の家まで1時間30分ほど歩いた。自分が歩いて運べる荷物の量を考え、実際の災害時に何を持って避難すべきなのか考えた。夕食のロケットストーブとハイゼックス炊飯袋を使った野外炊事は、鍋の水がなかなか沸騰せず苦戦した。18時ごろ日が沈み始め、時間切れでご飯が炊けず、レトルトの親子丼だけを食べた班もあった。防災食品やレトルト・インスタント食品に比べ、米等の材料から調理することの労力の大きさや調理時間の長さを実感した。



<3日目>

最終日の朝食は、食堂の食堂で提供された食事を食べた。4食を防災食で過ごしていたため、全員が食欲旺盛で何度もおかわりをしていました。朝食を食べて落ち着いた後、二日間の学習の成果を班ごとにまとめた。室戸市役所防災対策課の職員も来所し、防災について四班の発表を聞いていただいた。四つの班のまとめた成果物は、室戸世界ジオパークセンターと室戸市役所に巡回展示をしていただくことになった。

近い将来発生すると言われている南海トラフ地震ではあるが、私たちの生活時間で考えると発生するのは随分先の事になるかもしれない。今回の事業をきっかけとし、自分の成長や環境の変化に合わせて、その時の自分にできることを常に考えて欲しいと宿題を出して本事業を終了した。



事業の成果

今回の事業は、室戸ジオパーク推進協議会、国土地理院、室戸市役所、(株)轟組等と連携することで、普段見ることや聞くことのできない体験をたくさん取り入れることができた。たくさんの講師に関わっていただくことで、小学生たちも集中して真剣に学習に取り組むことができた。また、電気を使用しなかったため日没を気にしながらの活動となったが、「ちょっと待って」とか「嫌だ」と言っても誰にも日没を止めることはできず、自然に対しては、自分が合わせるしかないことを実感することができ、防災意識を高めることにも繋がったように思われる。

事業の課題

今回は好天に恵まれスムーズにプログラムを実施することができた。しかしながら、屋外での活動が多くなるため、雨天時荒天時にねらいを変えることなく代替プログラムにすることは難しい。

参加者の感想

- ・ 生きるための工夫がいっぱいあって、自分も工夫しながら防災について考えたい。
- ・ きついことや楽しいこと、いろいろあって楽しみながら活動できた。
- ・ 実際に災害が起きたようなリアルな体験ができてよかった。
- ・ 自分の家でも防災食を買っておこうと思う。